

患者氏名： _____

検査予約日： _____ 年 ____ 月 ____ 日

1. MRI 検査の目的と必要性

MRI 検査は、放射線を使わず強力な磁石と電磁波を利用し、体内の状態を断層像として描出することで病気を診断することを目的とする検査です。急性期の脳梗塞、腫瘍、血管、脊髄、神経、炎症などを身体の負担を少なくして検査することができます。

2. MRI 検査の注意点について

- 1) ペースメーカーや除細動器など体内に植え込まれている機器は磁場の影響で故障することがあります。当院では、常勤の循環器内科の医師が不在のため MRI 対応のペースメーカー等でも検査ができません。
- 2) 脳動脈瘤クリップ、ステント、人工弁、人工関節、磁性歯科用インプラント、可動性義眼、金属片などの体内金属も材質や留置時期により検査できないことがあります。
- 3) 外せる義歯、補聴器、ヘアピン、アクセサリ、時計、メガネなどは外していただきます。携帯電話、診察券・クレジットカードなどの磁気カード、小銭、カイロなども検査室に持ち込めません。安全に検査を行うために検査着に着替えていただく場合があります。
- 4) ニトロダーム・フェンタニルなどの貼付剤（貼り薬）のなかには熱傷（やけど）や体調不良などの危険を及ぼす物があります。検査前に剥がさなくてはいけない物と剥がしてはいけない物を確認させていただきます。
- 5) 検査は狭いトンネル状の装置内で行います。閉所恐怖症の方は検査が難しい場合がありますので、職員にご相談ください。
- 6) 検査には30分ほどかかります。検査中に動くと画像が乱れてしまうため、安静が保てない場合には検査が難しい場合があります。
- 7) 検査中は大きな音が発生し、聴力に異常をきたす場合があります。耳栓やヘッドホンを用いて音を多少軽減しますが、気になる場合は職員にお伝えください。
- 8) 磁場や電磁波により、めまい、頭痛、疲労感、動悸、吐き気が起こる場合があります。
- 9) アートメイクや刺青などの一部は鉄などの金属を含み、熱傷（やけど）を起こしたり変色したりする場合があります。
- 10) カラーコンタクトは金属を含み、熱傷（やけど）を起こす危険があるため、検査前に外していただきます。ケースのご準備あるいは眼鏡着用でのご来院など検査後に支障の無いようお願いいたします。
- 11) 事故などにより体内に自覚なく金属が入ってしまった場合や認知機能の低下などにより、金属や機器が体内、体外に装着していることを自覚されていない又は何が入っているのか分からない状態で MRI 検査をした場合に、熱傷（やけど）や組織の損傷または体内、体外に装着した機器の故障がおきる場合があります。

3. MRI 検査の合併症

組織の損傷、熱傷（やけど）、聴力の異常

4. 合併症発生時の対応と医療費

合併症が生じた場合には、最善の処置、治療を行います。状態によっては緊急の処置や外科的手術が必要になったり、入院期間が延長したりする可能性もあります。当院で対応できない場合は院外の医療機関に紹介になることがあります。合併症が生じた場合の医療費は、全て健康保険の適応となります。高額医療の助成やその他公的助成等については、院内に相談窓口がありますので、職員にお尋ねください。

5. 代わりの検査

MRI 検査を希望されない場合あるいは MRI 検査が困難な場合には、代わりの検査としてCT検査、X線検査、超音波検査、核医学検査などにより対応が可能な場合があります。ただし、MRI 検査でなければ得られない情報もあります。（例 ヨード造影剤を使えない方の急性期脳梗塞、血管撮影、胆管膵管撮影、悪性腫瘍や炎症の検索、骨挫傷など）

※検査中は呼び出しボールを持ちながら検査を受けていただきます。違和感がある際にはそのボールを強く握っていただきますと、検査を中断して対応いたしますので、安心して検査を受けてください。また、別紙の予約票や問診票を事前によくお読みください。

以上のように、患者へ説明しました。

説明年月日： _____ 年 ____ 月 ____ 日

医療機関名： _____

説明医： _____